

## 水稻の育苗準備

### 1. 床土の混和

項目		1箱当り	1袋当り箱数	包装単位	備考	
標準的な床土	タチガレエースM粉剤	8g	125	1kg	2成分	
	選択	① 稚苗複合(585)	30~40g	500~667	20 kg	
		② サイコー11号	12~15g	1,000~1,250	15 kg	
	選択	① ピートモス	0.4%	約300	約107%	
② ハイフミン		200g	50	10 kg		
他	エコロング413	40g	250	10 kg	稚苗(585)20g/箱	
	過石(粉状)	10g	2,000	20 kg		
	ゼオライト	100g	200			
	選択	①パダン粒剤	30g	100	3kg	1成分
		②プリンス粒剤		33	1kg	
	選択	①ファーストオリゼ箱粒剤	30g	333	10 kg	いもち病 床土混和 1成分
②ルーチン粒剤						
殺虫殺菌	混合	ファーストオリゼ フェルテラ粒剤	30g	333	10 kg	いもち病 2成分 播種時、床土混和

### 2. 水稻ばか苗病対策と消毒～催芽手順

#### 1) 消毒前

消毒～催芽を行なう格納庫等に乾燥・調整設備がある場合は、設備周辺を清掃し、籾殻や米ぬか等を出来るだけ除去する。

#### 2) 消毒時：テクリードCフロアブル（水温が上がる4月上旬より開始）

- ①同一の容器（オケ等）に異なる品種を入れ消毒しない。
- ②適正な薬剤使用方法で行う。水温が8℃以下と低い場合は、休眠性が逆に深まる場合がある。

水温	希釈倍率	浸漬時間
10℃～15℃	200倍	24時間

【種子 100 kg の場合の希釈例】

種子量	水	テクリードCフロアブル
100 kg	150ℓ～200ℓ	750ml～1ℓ

#### ※ 水温が低い場合の消毒【参考】

ハトムネ催芽機等で水温20℃～25℃程度の“ぬるま湯”を作る。“ぬるま湯”を種子消毒する容器に移し替え、「テクリードCフロアブル」200倍で希釈する。その後、容器にフタをして24時間浸漬する。

裏面あり

◆ J A S有機栽培等では、温湯消毒と微生物農薬（エコホープ）を併用して消毒する。温湯消毒後は種粕が無菌状態となるため、微生物農薬は温湯消毒直後に使用する。

□【温湯浸法（60℃、10分間浸漬処理）】…「乾粕」又は「塩水選直後」に処理。種粕が吸水した状態で処理すると発芽率が低下するため注意。

□【「エコホープ」受注販売 ばか苗病・もみ枯細菌病・苗立枯細菌病】

水温 10～15℃・200倍・24～48時間浸漬 【使用例】エコホープ1ℓ：水200ℓ：種子160kg

③消毒・浸種時は容器にフタをし、外部からの「ばか苗菌」等の侵入を防ぐ。

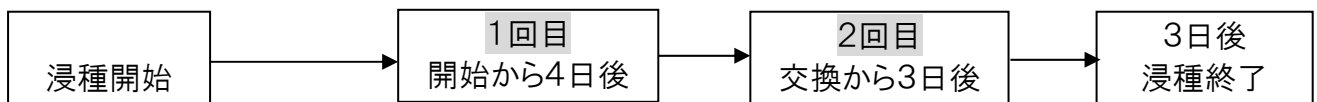
### 3) 浸種時

①同一の容器（オケ等）に異なる品種を入れ浸種しない。

②浸種の粕と水量との容量比は1：2程度とする。 【例】種子 100 kg：水 200ℓ

③水の交換回数は控えめにする。目安は10日間で2回程度。1回目の交換までの期間を長めにする。

（交換のローテーション例・10日間の場合）



④浸種終了の外観的目安は、粕を透かして胚が白くなったときが理想。

### 4) 催芽時

①催芽温度は30℃～32℃でおこなう。

②異なる品種を同時に催芽しない。

③品種毎に催芽機内を（水洗い）洗浄する。

## 3. 催芽（あきたこまち；32℃で30～36時間[気温が低い場合は少し長めの芽出し]）

目安時間のため、催芽状態を随時確かめながら揃いの良い催芽を心掛けてください。

品 種	ゆめおぼこ	きぬのはだ	ときめきもち	あきたこまち	ひとめぼれ	萌えみのり	たつこもち
催芽目安時間	24hr			30～36hr	40～48hr		

1) 発芽最適温度は32℃で、発芽にかかる時間や発芽揃いが良好とされています。それより高温になると発芽は早いですが異常となり、45℃以上は危険温度、50℃では10時間経過するとすべての粕が死んでしまうので、くれぐれも40℃以上にならないよう注意する。催芽機の設定温度以上に水温が上がる可能性があるため、直射日光が長時間当たる場所での催芽は避ける。

2) 催芽時に酸素が不足すると、幼芽だけが伸び、幼根は伸びないので注意する。

★催芽を揃える方法（酸素供給剤）

①種粕専用酸素供給剤 活水 100倍 【浸種の後半～催芽時に1～2回実施】

②アミノ酸入酸素供給剤 ハニサンソ 約9.5%

【催芽前に50倍で、12～20時間浸種後水分を良く切ってから催芽を行うこと。】

③浸種中も水温が低くなる場合はお湯を足すなど、出来るだけ8℃以下にならないよう努める。